

令和3年度

# 進路だより



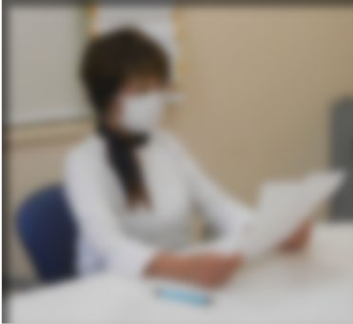
秋田県立秋田きらり支援学校

第3号

令和3年10月29日発行



## ～ 卒業後の生活 ～ <前編>



↑インタビューの様子

社会人となった現在の生活などについて、本校卒業生のAさんのお母様にインタビューさせていただきました。進路先のこと、生活のこと、今後のことなど、貴重なお話をいただきました。2回に分けて、お届けいたします。

### Aさんのこと

- ・令和3年3月 きらり支援学校高等部卒業
- ・秋田市在住、両親と本人の3人で暮らしている
- ・現在は 第二聖和(月曜日)、よつ葉(火曜日)を午前9時30分～午後3時まで利用している

### Q1 進路先決定のポイント教えてください

安全・安心・医ケア(医ケアにより、選択できる事業所は3か所だけでした)。その中で、特に重視したのは、医ケアです。もっと選べる事業所数があるとしても、1、2回実習を体験しただけで、決められるものでしょうか…。幅や可能性を広げる、という点ではいろいろ体験してみるのもありますが、システムなどを見て親の気持ちは固まるかもしれないけれど、最終的には子どもが決めます。子どもが体調よく通い、スタッフの皆さんとの生活の流れや相性を感じて、子どもが選ぶのがベストだと思います。

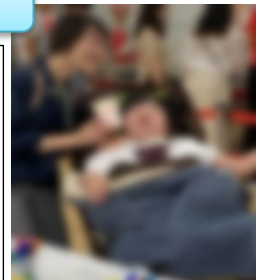
学校が楽しかったので、学校のようにいろいろなことが経験でき、楽しくにぎやかで、お出かけなどできるところ。あるいは送迎(吸引があるので現在利用はしていませんが)。家に近いところ、慣れているところ、を考えて選びました。

学校時代、放課後等デイサービスは利用していませんでした。吸引が多く、早退することもあったので、放課後は家で静養し、翌日に登校することを優先していました。

### Q2 学校時代で、心に残っていることや印象に残っていることは?

修学旅行。この時期になると「今日行ったなあ。楽しかったなあ」と思い出している。医ケアなので同行した。親も子も楽しかった。小、中とも体調不良で行けなかったのが、本当に良かった。親も子もみんなとの思い出づくりができた。

朝の登校で、自動ドアの小鳥の鳴き声に迎えられるのが大好きで、先生たちから挨拶で迎えられるのが大好きだった。



### Q3 現在、「あるといいなあ」と思うサービスは何ですか?

修学旅行(カップヌードルミュージアム)より

友達との遠足。お出かけですね。学校ではPTAや送迎の際の立ち話など親同士のつながりがありましたが、卒業すると集まる機会がなくなってしまうので、コロナが終わったら何か企画したいです。どこかに行きましよう。学校生活で、特に修学旅行が印象に残っています。修学旅行は素晴らしい計画で、勉強になりました。誰かが声をあげるのを待っているのではなく、子どもが元気で日々が退屈な今、何かやって前に進んでいきたいです。卒業したからこそ、好きなことができる面もあります。医ケアがあるから、と修学旅行に行けなかった先輩がいますが、今度こそ、みんなで行きたいです。

## 小学部段階での進路について

中学部の勉強を見学・体験しにきてください。何年生でもOKです。

『自立と社会参加』の形は・・・人それぞれ違います。

そこで、中学部では『自立と社会参加の姿』を次のように捉えています。

社会に出て、ものや人との関わりの中で、自分がもてる力を最大限に発揮し  
自分らしく生きること

そのために・・・今（小学部）からできることに一つずつ取り組んでいきましょう。

### 関わる力

いつでも誰にでも  
自分なりの方法で  
挨拶していますか？

好きなこと関心のあることは何ですか？  
経験し、挑戦し、好きなことを増やしましょう。

### 意欲、挑戦する力

「どっちがいいかな？」  
自分で決めていますか？

「やりたい！」「嫌だなあ」  
「お願いしたいなあ」  
自分の気持ちを周りの人に  
伝えていますか？



### 生活する力

身の回りのこと  
でできることを増  
やしませんか？

「何かな？」  
期待して物や人に注目していますか？

(文責：平川)

## 成人を祝う会が行われました



7月31日、かがやきの丘大会議室を会場に、同窓会主催による「成人を祝う会」が行われました。今回は、新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった昨年度成人を迎えた平成30年度卒業の7名と、今年度成人を向かえた13名の皆さんをお祝いしました。

全員が安心して会に参加できるよう、今年度はリモートでも参加できるようにしました。参加者の皆さんは緊張した表情でしたが、会場に設置されたスクリーンと会場とのやり取りが進むと徐々に笑顔になりました。休憩時には、スクリーン越しに旧交を温め合う姿もみられました。



同窓会から記念品として、シャボンフラワーを差し上げました



## 卒業生の姿から思うこと～願いに向けて今できること

担任していた生徒が卒業してしばらくたちますが、たまに電話で連絡を取ったり、リハビリの時に顔を見せてくれたりと、今も関わりがあります。



「お小遣い程度でいいから給料がほしい」 (県北)

～Kさんは身体介助が多く必要なので、生活介護の事業所で簡単な作業をして、希望通りお小遣い程度の給料をもらって過ごしていました。しかし、生活の場であるグループホームが新築、引っ越しとなったため、それまでの生活介護事業所は利用できなくなりました。「お小遣いがもらえなくなっちゃった。なんだか気力もなくなった。」と悲しそう。それでも自分で相談支援員に「何か仕事をしたい。」と訴え、送迎も身体介助もしてくれるB型事業所とつながりを持ち、現在は前よりも多く賃金をもらって、生き生きと生活しています。

「一般就労したい」 (県北)

～在学中の願いは一般就労だったSさん。卒業時「まずは生活の場であるグループホームの生活に慣れることから。」と、一般就労ではなくB型事業所で仕事を積み重ねました。卒業して3年経過した頃だったでしょうか、「A型で仕事ができることになりました。」という報告が！「今までよりも責任があり仕事も大変ですが、やりがいがあります。」とのこと。少しずつ力を付け、一步一步目標に近づく姿に胸が熱くなりました。

「こうなりたいな」「こんな生活がしたいな」という願いが大事だと改めて思います。どんな小さな事でも、逆に大きな夢でもかまいません。そして、それに向けて「今できること」を見付けチャレンジしましょう！「願い」があれば、「今できること」が少しずつ「願い」に近づき、逆に、「願い」が「今できること」に近づいてくるかもしれません。



(文責:近江)

## 成人を祝う会が行われました



7月31日、かがやきの丘大会議室を会場に、同窓会主催による「成人を祝う会」が行われました。今回は、新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった昨年度成人を迎えた平成30年度卒業の7名と、今年度成人を向かえた13名の皆さんをお祝いしました。

全員が安心して会に参加できるよう、今年度はリモートでも参加できるようにしました。参加者の皆さんは緊張した表情でしたが、会場に設置されたスクリーンと会場とのやり取りが進むと徐々に笑顔になりました。休憩時には、スクリーン越しに旧交を温め合う姿もみられました。



同窓会から記念品として、シャボンフラワーを差し上げました

